

「第4回合同研修会からの学び」

平成29年9月27日(水)、吉舎小学校を会場として、合同研修会を行いました。参加者の皆様から多くの参考になるご意見をいただきました。誠にありがとうございました。皆様からいただきましたご意見を授業の流れに沿ってまとめ、報告します。

研究主題 「自学力の育成」～ルーブリック評価に基づいた授業改善～

第2学年 単元名「形をしらべよう」

つかむ

問題の提示

キーワード
「課題設定の工夫」

◎三角形王国と四角形王国の導入は、児童のやってみようという意欲に大いにつながっている。単元全体を通すとさらにストーリー性が増す。(王様へのプレゼント)

見通し、考える

見通しをもつ

◎算数用語を用いて既習事項が確認されている。
・どこに目をつけて調べたらよいかを明らかにする。そうすれば、めあてとまとめがリンクする。
・既習事項は、常に確認できるような場所へ掲示する方が良い。

自力解決

キーワード
「条件を明確にした個人思考」

◎ワークシートの工夫がある。個人思考をする上での手立てがあった。一つ一つの図形を仲間に分け、理由を書くのが良かった。
・理由を書くとき、算数用語を使って書くことをおさえる。
・辺と頂点、条件にこだわらせることが必要。
・ラミネートすることで、ホワイトボードペンが使える。

深める

集団解決

キーワード
「誤答の活用」

キーワード
「答えは同じでも理由は違う」

◎板書が構造的で分かりやすかった。
・グループでの話し合いでは、誤答した児童が納得しないままにグループ学習が終了していた。書いたことを読むだけで、交流になっていない。話し合いの焦点(何をどう話し合わせるのか)の明確化、話し合いのスキルを高めることを要する。(班内での話し合いの型(シナリオ)⇒やってみせる⇒まねをさせる)
・同じ児童の発言が多く、「同じです」という反応が多い。誤答を生かす工夫があれば、より深く学習ができたのではないか。また、判断できない形をどうして迷っているのかを先に言わす。
・全体場面では、問題を絞り込んで話し合いを焦点化させればどうか。また、教師が切り返すことも必要。
・答えだけでなく、理由をしっかりと知らせることで学習が深まる。根拠を話し合わせる事が重要。その場合、話型指導(～だから～です)の指導も必要。
・説明する時、算数用語を的確におさえる。(ちよくてん→ちよくてん、直線がふにやふにやしている→定規を使わない線は直線になっていない)

まとめる

・まとめは、児童が児童の言葉できるように指導すれば良い。

適用題

◎最後の問題は、分裂があり、良い問題であり、次時につながる。

三次市教育委員会 学校教育課 指導主事 新谷勝治 様からの講話のポイント

- ① 学習規律が定着しており、学びの土台になっている。
- ② 視覚化、具体物操作、共有化、重点化等、ユニバーサルデザインの授業につながるものであった。「直角王様に定義づけしよう」という単元開発につながる。～今後に向けて～
- ③ ① 今日の評価問題はあの問題が適切であったのか。何をおさえるかの視点を持つ。
- ② 合っているか、合っていないか、すっきりさせることが大切である。
- ③ 思考の焦点化を心がける。どこで児童の思考をゆさぶるのかの視点を持つ。
- ④ 課題を最初に提示(ゴール)。これが解けるようになるために学ぶという流れをつくる。
- ⑤ ワークシートは、何をどこまで書かせるのかを明確にして作成する。直線、頂点等、条件で見させる。
- ⑥ 同じですと言わせないためには、答は同じでも理由の言い方は違うので、理由をしっかりと知らせる。
- ⑦ つなぎ発言を他教科でも実践し、力を育成する。